

提出日 2023/10/13

2023 年度 慶應 SFC 学会研究助成金 (D) 報告書

「動いている庭」の理解のためのフィールドワーク

学籍番号：82324262

所属：政策・メディア研究科1年

申請者：大国 絢美

概要

本研究は、9月中旬にフランスのパリ15区にあるアンドレ・シトロエン公園（図1）の現地調査を行った。庭師ジル・クレマンの「庭は風景と環境を同時に含み、人間と自然の関係の現実である」（山内、2013）という思想を理解するためである。今回の調査では、アンドレ・シトロエン公園以外の彼の設計した庭もいくつか訪問した。

日時：2023年9月12日～22日

参加者：大国絢美、茂木真琴



図1：アンドレ・シトロエン公園 動いている庭
(撮影者：申請者)

訪問先

ジル・クレマン設計

- ・アンドレ・シトロエン公園
- ・ケ・ブランリ美術館
- ・アンリ・マティス公園

・ジュアン公園

その他

- ・リュクサンブール公園
- ・チュイルリー庭園
- ・パレ・ロワイヤル庭園
- ・ヴィヴェエヌヌ庭園
- ・レコレ庭園
- ・モリエール庭園 など

活動成果

本調査の目的は、模型制作のために資料だけでは不足している視覚的・身体的情報を、現地で収集することであった。そのため、現地ではスケッチや画像・動画撮影などを行い観察した（図2,3）。フィールドワーク中の匂いや音などのその場で感じ取れた臨場感もメモに残すなどして、帰国後の制作に活かせるようにした。

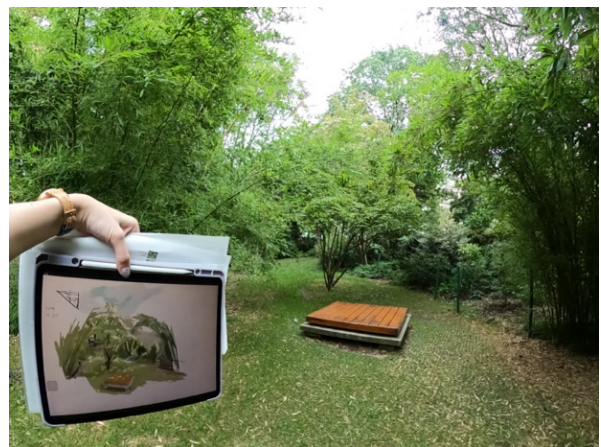


図2：動いている庭のスケッチの様子

(撮影者：申請者)

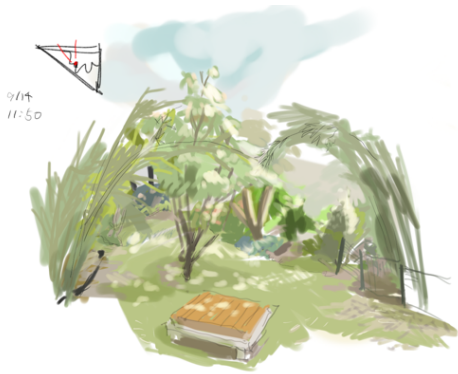


図3：実際のスケッチ（作成者：申請者）

現地調査から、来園者が庭をさまざまな用途で使っていることがわかった。また人が訪れていることで、徐々に植栽の場所が変化していったことが、調査をして明らかになった。庭の使われ方は彼の著書『動いている庭（山内朋樹訳）』に「この公園の空間構成は、庭師のみではなく来園者が一部になっており、時とともに展開していく」と述べている。来園者はヨガ、ランニング、休憩、ランチなど多様な活動していた。これら活動は、時間帯や天候によって来園者の年代や活動内容が変わり、それに伴い空間も変化していた

そして、公開以降30年を経過した庭の道と構想時の図面に書かれた道を比べ、若干の差異が出てきていることが読み取れた（図4）。平面図では書かれていない植栽が生えていたり、道ができていたりした。これら現在の植物の群生から、ゆっくりと長期的に空間が変動していったことが読み取れた。

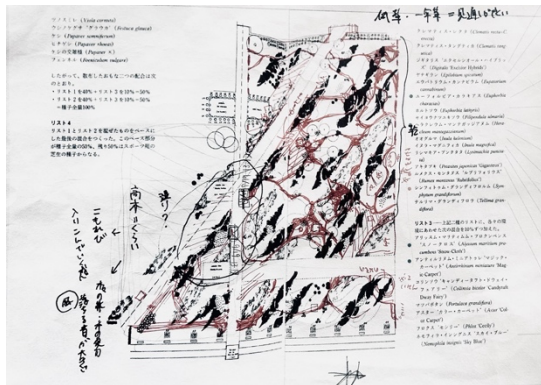


図4：『動いている庭』（山内朋樹訳）に掲載されている

動いている庭の平面図に歩ける場所を書いた様子

今後の研究計画

今後の研究計画は、今回の調査を通して得られた情報を他者へ共有できるようなプロダクトを作成する予定である。また、訪問による気づきや発見をレポートや評論など文章でもまとめる。

当初は模型を作成する予定だったが、模型による表現が妥当か疑問になったため、他の表現方法を模索している。そのため、現在は調査中の気づきや発見を見直している。年度末の石川初研究会主催の展示会に向けて成果品を完成させる予定である。

謝辞

本研究を進める上で慶應 SFC 学会様・小泉基金大学院生海外渡航費補助様から研究助成をしていただき、感謝いたします。

参考文献

1. Clément, & 山内朋樹. (2015). 動いている庭：谷の庭から惑星という庭へ. みすず書房.
2. 山内朋樹. 「動いている庭」から「野原」へ：ジル・クレマンにおける風景と環境. 立命館言語文化研究 = 立命館言語文化研究. 2013, vol. 25, no. 1, p. 59–74.